

## 米山月間によせて なぜ米山奨学事業なのか

米山奨学委員会 委員長

西谷雅之 (大阪城南RC)



「日本が第2次世界大戦に向かって突き進んでいかなければならなかったのは日本の味方をしてくれる友好国が無かったから」

これは中学3年生の時の歴史の先生の言葉です。明治維新を成し遂げ近代化・西洋化の道を歩んだ日本。眠れる獅子と呼ばれた清に勝利し、世界最強と言われたバルチック艦隊をも破った極東の小さな島国日本は当時の列強と言われる国々の目にはどの様に映ったのか、列強に追い付け追い越せという過程で友好国を作る努力を怠った日本はやがてその包囲網から国際連盟を脱退するしか道が無くなって行く、その時止めてくれる国や諒めてくれる国、また仲を取り持ってくれる国が無かった事が日本の不幸ではなかっただろうか？先生はそう仰いました。それから20年、私はロータリークラブと言う場でその言葉を思い出す事になりました。

「将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を肌で感じてもらうしかない。それこそ、日本のロータリーに

最もふさわしい国際奉仕事業ではないだろうか」奨学事業の構想が立案されたのが終戦の7年後、そしてその5年後に全国組織となるロータリー米山奨学委員会が結成されました。上記の言葉は当時の日本のロータリアンの偽らざる気持であったと思います。

さて、今年は米山基金の募金が開始されて60年目になります。人生で言えば還暦を迎えた米山記念奨学会はここ数年その体力が下降傾向にあります。1000人規模であった奨学生数は800人となり今年度から700人になりました。この60年の間にバブルの崩壊など日本と言う国の体力低下、それに伴う日本のロータリーの体力低下は有るでしょう。しかし、奨学制度設立当時の日本のロータリアンの心まで低下させてはならないと思います。

是非奨学事業の使命・意義を再確認し、構想立案当時の時代背景やロータリアンの心に想いを馳せて頂きまして、米山奨学事業へのさらなるご理解ご協力をお願いいたします。

## クラブ国際奉仕委員長会議 報告

国際奉仕委員会 委員長

栗原 大 (大阪フレンドRC)

8月3日に第1回クラブ国際奉仕委員長会議を開催させて頂きました。各クラブの国際奉仕委員長総勢100以上の皆様に出席頂き無事終了できる事ができました。心より御礼申し上げます

### 【福家Gから開会のご挨拶】

第2660地区の各クラブの活発な国際奉仕活動に、さらなる今年度も活動を期待されました。また今年度から新しく始まるFVPについては、資金力に難易度が高いプロジェクトについても有効に活用できるシステムである事を話されました

### 【国際奉仕委員会 委員長 栗原 大の今年度の国際奉仕活動について】

今年度、地区国際奉仕委員は10名の委員で構成されております。各IMごとに担当を決めており、国際奉仕活動についてご質問・ご相談ございましたら、担当メールにて頂ければご回答差し上げたいと思います。世界社会奉仕に変わる呼称について今年度当地区は国際奉仕プロジェクト、また基金については国際奉仕基金と変更になっております。またアンケート実施につき、当地区の国際奉仕活動をクラブ単位で確認してもらうことにより、IM内・近隣クラブ同士の共有資料にして頂き、まだ国際奉仕プロジェクトが未計画なクラブ様には出来るだけクラブ同士でプロジェクトへ参加を促していただきたいと考えます。地区内のすべてのクラブ様

が国際奉仕プロジェクトに携わっていることを今年度の目標とし地区国際奉仕委員会としては精一杯ご協力させて頂きます。最後に今年度は新しい補助金システムが始まりますが、随時情報源を分かりやすくお報告したいと考えています。是非、地区発行の地区国際奉仕ニュースレターを会長・幹事・国際奉仕委員長に、ご確認頂ければと思います。

### 【地区財団補助金小委員会 地区補助金 グローバル補助金担当グループ 四宮孝郎リーダーからのロータリー財団の補助金について】

ロータリー財団の補助金の概要説明および申請要件についてお話がありました。地区補助金については前年度からの計画の必要性そしてグローバル補助金については期限はございませんが、プロジェクトの立案について授与と受諾の条件・補助金管理の手引きをよく理解し計画する必要性がありますが、新しい補助金システムを貴クラブのプロジェクトに有効に活用して頂きたいと話されました。

### 【泉博朗GEからの講評】

第2660地区各クラブの活発な国際奉仕活動に、さらなる今年度も活動を願っております。

### 【国際奉仕部門 顧問 横山守雄PGから閉会のご挨拶】

各クラブが大小かわかわらず国際奉仕活動を活発に実施されることを期待します。

